

かっこいい家を建てよう…

長年あこがれだった塚口舞さんにプロポーズを果たし、見事OKもらった高田康宏さん。来年の結婚を機に、愛着ある塚口で、マイホームを建てることにしました。木造3階建てのかっこいい家を建てようと工務店の元浜源治さんに相談を持ちかけましたが、イメージ通りの建物をつくるのはちょっと難しいようです。



高田康宏さん(38)

元浜源治さん(72)

塚口舞さん(34)

コラム

花と緑あふれるまちをめざして

建物の庭先や公園、街路などの花壇は、育てている人の楽しみにとどまらず、見る人にとっても心安らく存在です。尼崎では、花壇づくりに取り組む個人や団体を表彰して、豊かな都市空間づくりにつなげようと、毎年春にフラワーガーデニングコンテストを開いています。

解説モード

住み心地のよい家づくりには、間取りや外観といったデザイン面のほかに、お隣の日当たりや風通しも大切です。家の建て方によっては、ご近所づきあいにも影響します。元浜さんの説明を聞いた高田さんは「自分の土地でも、みんながルールを守ることによって、住みやすいまちができていくんだなあ」と納得しました。

日影規制

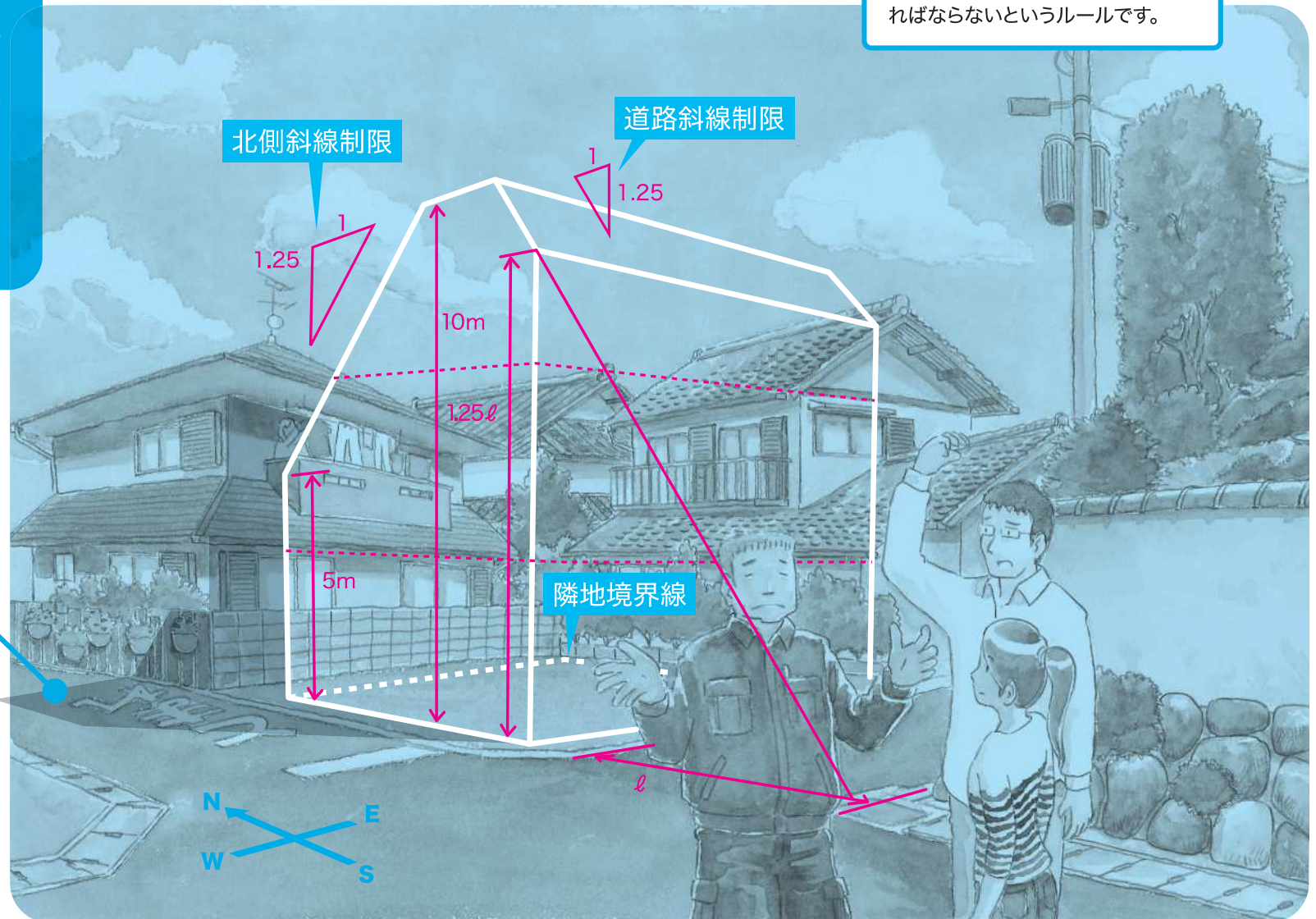
隣の敷地に一定時間以上の日影を落とさないよう建物の形や配置を工夫する必要があります。この地域では軒の高さが7メートル以上か3階建ての家を建てるときに対象になります。

高度地区と高さ制限

住環境を守るために、住居系の用途地域などでは、建物の高さを制限する「高度地区」を定めています。尼崎では用途地域等に応じて5種類の高度地区があります。

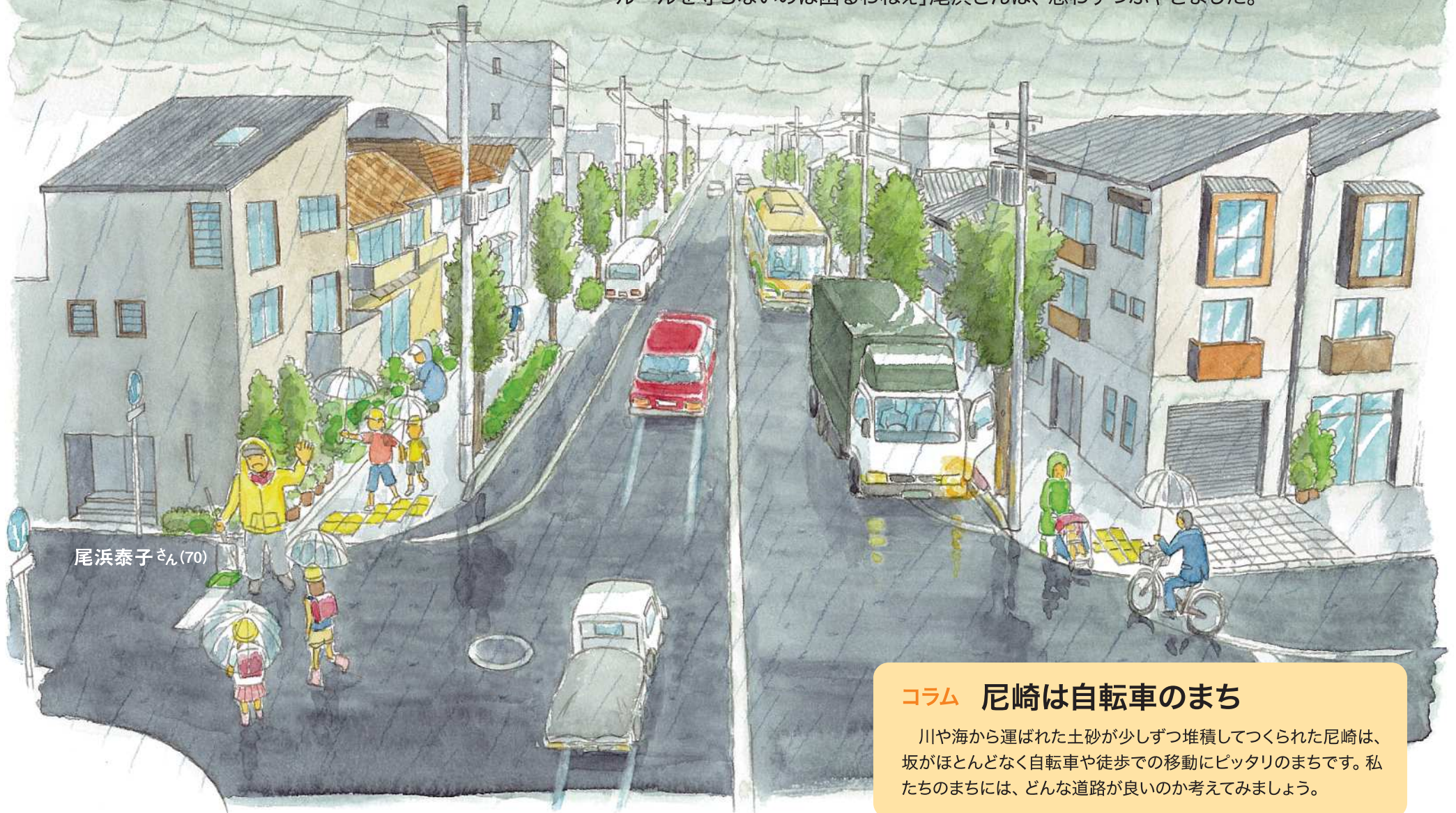
斜線制限

建物の壁や屋根の高さに関するルールを「斜線制限」と言い、「道路斜線」「隣地斜線」「北側斜線」の3種類があります。建物を建てる場合は、一定の範囲内に建築しなければならないというルールです。



暮らしを支える道路

毎日小学生の登下校を見守りながら、通学路の清掃を欠かさない尾浜泰子さんには、最近、気がかりなことがあるようです。歩道でベビーカーと自転車がぶつかりそうになったり、車道に停めた自動車のせいで、路線バスや自転車が走りにくそうにしているのです。「ルールを守らないのは困るわねえ」尾浜さんは、思わずつぶやきました。



尾浜泰子さん(70)

コラム 尼崎は自転車のまち

川や海から運ばれた土砂が少しずつ堆積してつくられた尼崎は、坂がほとんどなく自転車や徒歩での移動にピッタリのまちです。私たちのまちには、どんな道路が良いのか考えてみましょう。

未来モード

まちの骨組み

道路があるところは、どこへでも行けます。また、道路がなければ建物は建てられません。日当たりをよくし、風の通り道にもなりますし、道路の下には日常生活に欠かせないガスや水道、下水道も通っており、まさに「まちの骨組み」と言えます。

清掃・緑化活動

近くに住む尾浜さん。子どもたちと交わす朝のあいさつが楽しみで、道路の掃除が日課になりました。毎日少しずつコツコツと。1人でもできる活動のお手本です。また、自宅の玄関先に植えている花や緑は、まち並みに彩りを添えています。

歩道のバリアフリー化

歩道と車道の段差が少なくなると、車いすやベビーカーでも通りやすくなります。

無電柱化

電線が地中に埋められると、地上の電柱と電線は姿を消し、空が広く感じられ道路沿いの景観がよくなります。

自転車レーン等

車道の左端に作られた自転車だけが通行できる区間です。これにより、歩行者と自転車は、それぞれ安全で快適に通行することができます。また、車道端の違法駐車が減る効果もあります。

下水道

生活排水や雨水を流す下水道は、悪臭や病気から私たちを守ってくれる縁の下の力持ち。また川や海をきれいに保つためにも欠かせません。さらに大雨の浸水防止にも大きな役割を果たしています。

共同溝

歩道の下には、電気、電話、ガス、上水道などの都市生活に欠かせないライフラインを収納する「共同溝」が埋められている場所があります。メンテナンスの際に道路を掘らなくてもよいほか、電柱がなくまちがスッキリします。

工場と住宅の 関係

ものづくりのまちとして発展してきた尼崎には、まち中にもたくさん
さんの工場があります。猪名寺哲也さんが経営する工場の前は、
朝と夕方は登下校の子どもたちでにぎやかです。「ゴーヤが大き
くなったね」「何を作っているの?」みんな好奇心いっぱい、猪
名寺さんを質問攻め。以前は工場ばかり建っていたこのあたり
も、最近は住宅が増えはじめました。新しい住民たちとの交流も
猪名寺さんの楽しみなんだとか。



猪名寺哲也さん(56)

解説モード

大阪や神戸といった大都市に近い尼崎は、工業地としても、住宅地としても便利なまちです。最近では工場跡地にマンションが建てられるなど、工場近くに住宅が増えてきました。そこで、「都市計画」により、工場と住宅が共存できるようなルールを定めています。

住宅と工場の共存ルール 高度地区と特別用途地区

ここは工業系の用途地域ですが、住宅の割合が増えてきたので、住宅と工場が共存できるように一定の危険物を扱う工場を建てることを制限し、住居系地域並みに建物の高さを制限するなど、「住工共存型特別工業地区」や「第5種高度地区」といったルールを定めています。

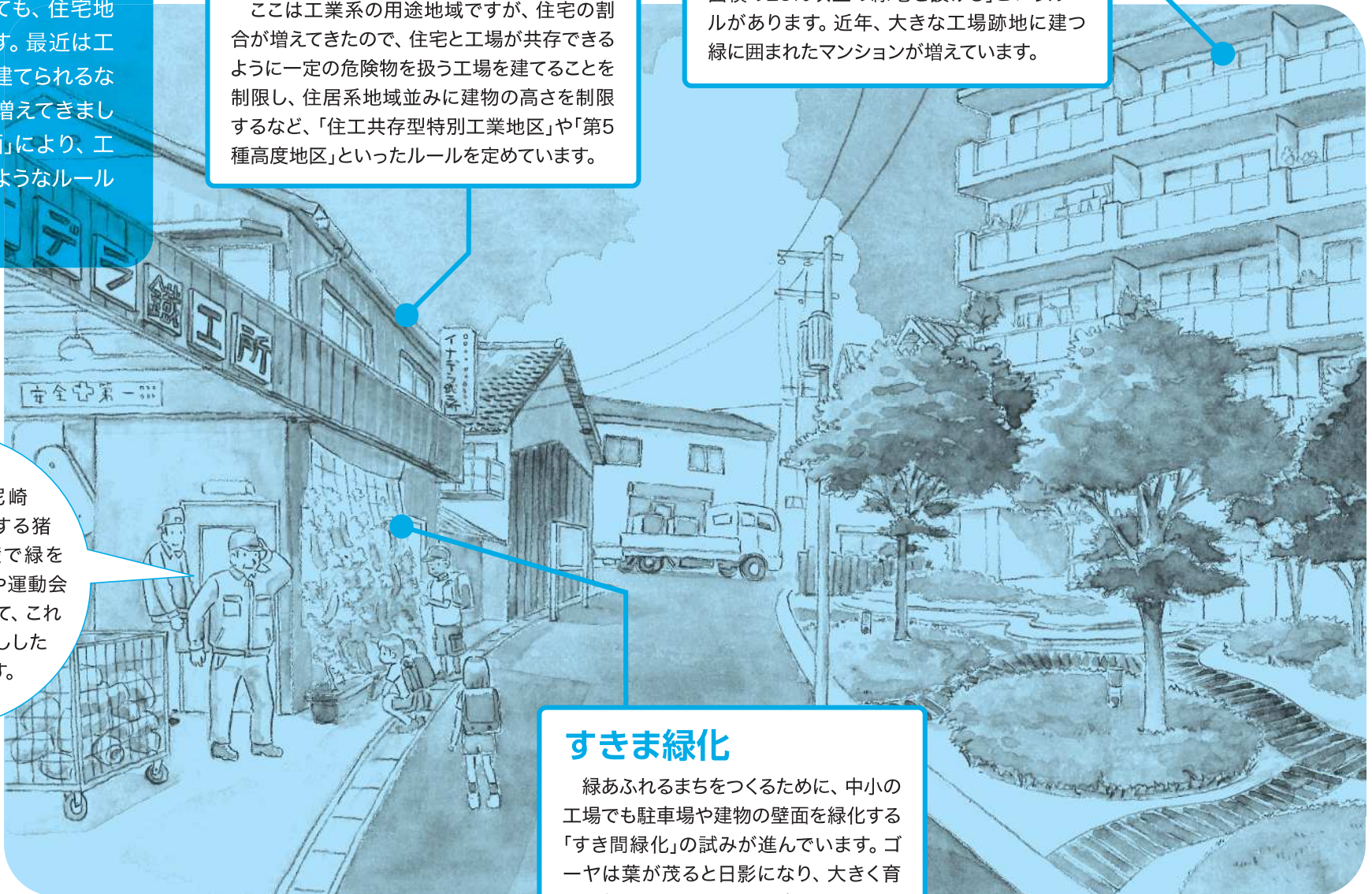
緑に囲まれたマンション

尼崎では、一部の工業地域などで住宅を建設する場合、工場の操業環境と住環境の双方を守るために「敷地の外側に幅6m以上、敷地面積の25%以上の緑地を設ける」というルールがあります。近年、大きな工場跡地に建つ緑に囲まれたマンションが増えています。

愛着ある地元尼崎で、町工場を経営する猪名寺さん。工場の壁で緑を育てたり、地域の祭や運動会を手伝うことを通じて、これからも地域に恩返ししたいと思っています。

すきま緑化

緑あふれるまちをつくるために、中小の工場でも駐車場や建物の壁面を緑化する「すき間緑化」の試みが進んでいます。ゴーヤは葉が茂ると日影になり、大きく育った実は食べられるので人気です。



森と記憶

尼崎の森中央緑地が進む、市民による森づくり。今日は月に2回の作業日です。2年間育てた苗木を手に富松さん一家がやってきました。植樹の指導をするのは尾浜正治さんです。実は、尾浜さんはある思いを胸にこの活動に参加していたのです。

コラム

尼崎21世紀の森構想

尼崎の臨海地域は重化学工業を中心に発展する一方で、公害の発生など環境面の課題を抱えていました。この構想は、水と緑豊かな自然環境をつくり、環境共生型のまちづくりを目指そうと兵庫県が策定したもので、拠点となる尼崎の森中央緑地では、20万本の苗木を植えて森をつくる壮大な計画が進んでおり、市民や企業による植樹活動が続いています。また、臨海部の運河では、かつては産業用の輸送に使われていた運河の水質を二枚貝の力で改善しようという実験も進んでいます。



富松竹彦さん(36)

桃子さん(35)

千尋ちゃん(3)

信一郎くん(10)

尾浜正治さん(74)

過去モード

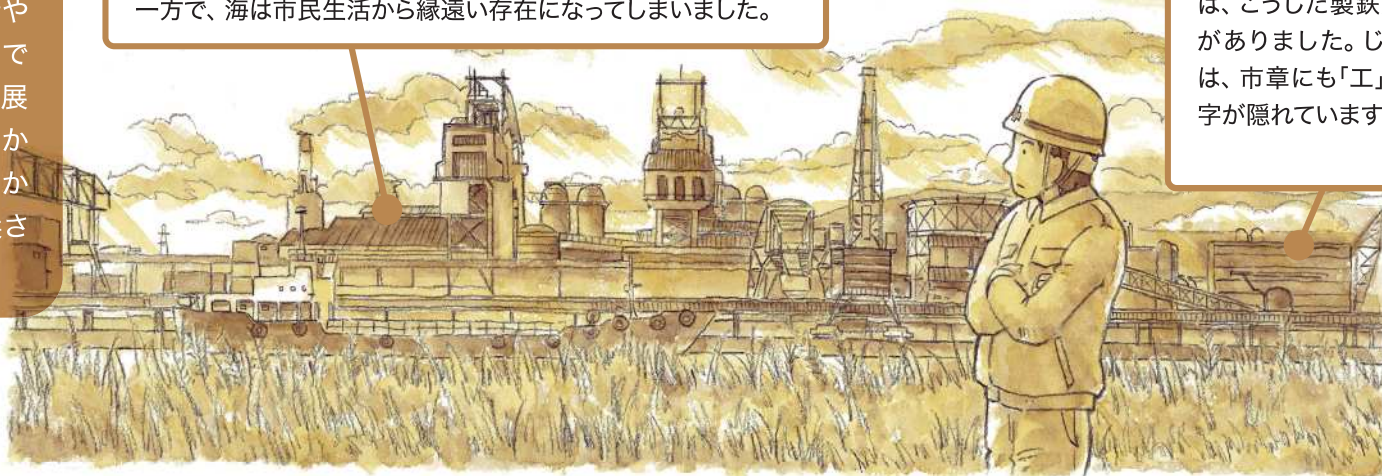
数十年前のこの場所には、製鉄所や発電所が建ち並び、尾浜さんはここで技師として働いていました。尼崎の発展と、国の産業を支える工場でした。しかし、大気汚染公害を引き起こし、いつかは尼崎の環境再生を…と、若き尾浜さんは心に誓ったのです。

工業専用地域

尼崎の臨海部は工場が大半を占めており、住宅は建てられない工業専用地域です。操業環境を守るための用途地域ですが、一方で、海は市民生活から縁遠い存在になってしまいました。

工都尼崎

尼崎が「工都」と呼ばれた背景には、こうした製鉄所や工場の集積がありました。じつは、市章にも「工」の字が隠れています。



県産の苗木でつくる森

植えられた木は、すべて近隣の森で拾い集めた木の実から育てたもの。気候風土に合った樹種がそろい、定着しやすいのです。

企業の参画

森づくりに参加する企業からも、尼崎の環境再生を発信。こうした取組を多方面からPRすることで、「公害のまち」というイメージが変わってきました。



森のプログラム

木が大きくなるにつれて発生する間伐材を有効活用しようと、市民が企画し運営するプログラムづくりが進んでいます。子供たちが熱中しているのは、バームクーヘンづくりです。

未来モード

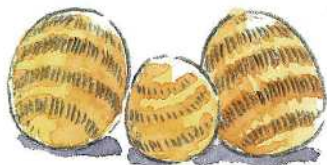
数十年後の未来。尼崎の森は、緑とたくさんの生き物が暮らす場所になっています。木を植えた千尋ちゃんは2人の子を持つお母さんになり、市民が参加できるプログラムを担当しています。都市部に暮らす子どもたちにとって、ここは身近な自然と触れ合える庭のような存在です。

畑に隠れた すごい役割

秋、田能地域の畑からは大きな歓声が聞こえてきます。田能の里芋の収穫です。毎年、植え付けから参加している高田朗さんと藍子さんは、大はしゃぎの子どもたちに目を細めます。さて、この風景には、どんな秘密が隠れているのでしょうか。



田能の里芋

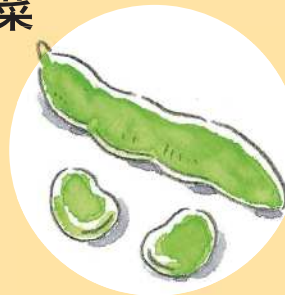


田能地域で自家栽培されてきた里芋。皮をむいても手がかゆくならないという珍しい品種です。かつて冠婚葬祭のときに「のっぺい汁」としていただきました。

コラム 尼崎の伝統野菜

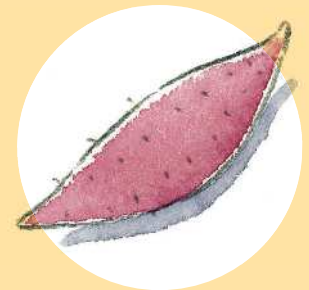
武庫一寸ソラマメ

ソラマメの原種といわれ、とても大きな豆ができます。近隣の和菓子店やレストランでは一寸豆を使った商品もつくられています。



尼いも

江戸時代後期から臨海部で栽培されていました。色々なサツマイモの中でも高級として知られ、京都の料亭でも使われていました。現在は、市内の学校や幼稚園などでも栽培されています。



解説モード

生産緑地地区

都市部の一団の農地を計画的に保全する「都市計画」で、豊かな都市環境を形成する役割があります。生産緑地地区では農業以外の利用に制限がかかります。

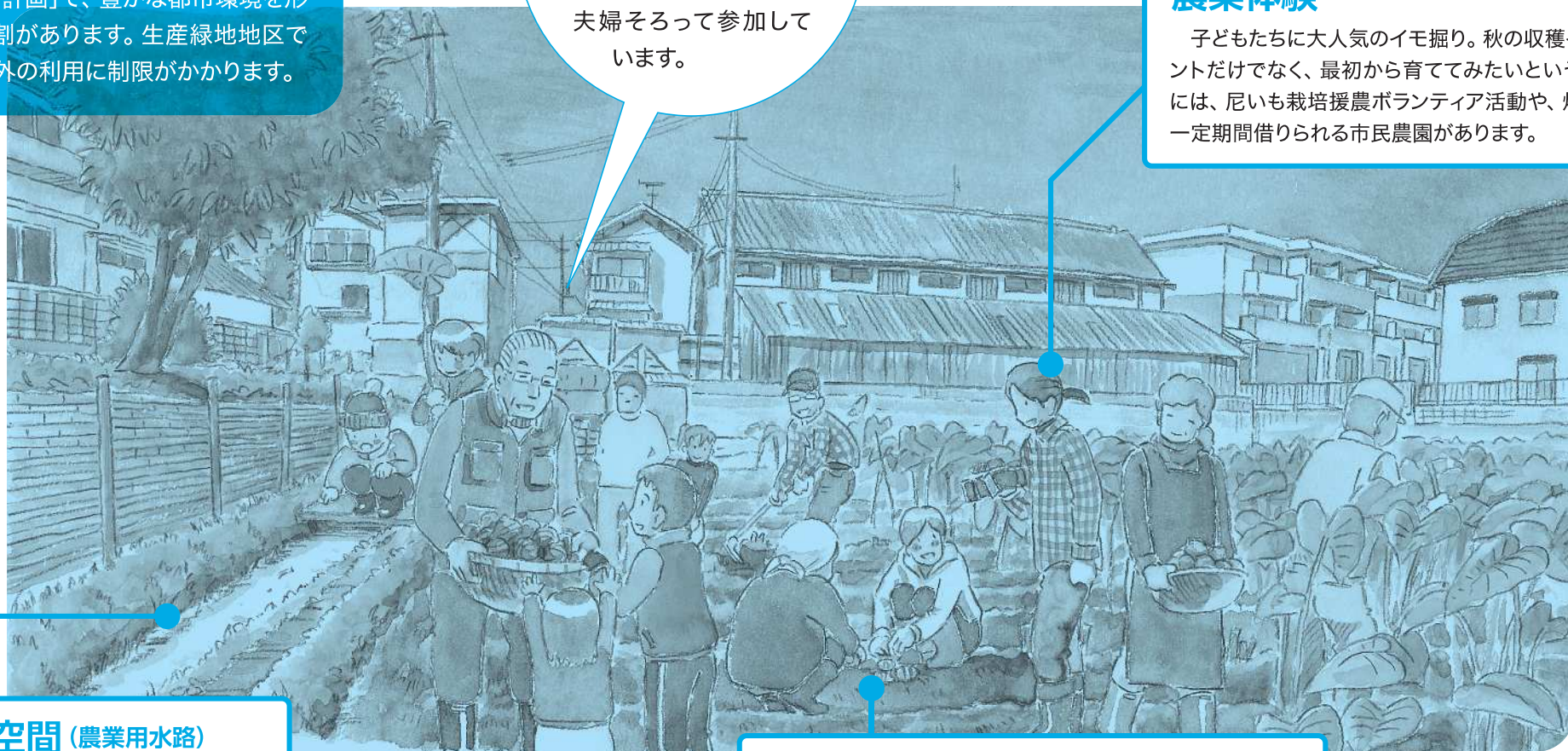
もともと庭の土いじりが好きだった高田さん。里芋づくりを通して、野菜作りの名人に出会うことができ、藍子さんも大喜び。今では夫婦そろって参加しています。

田園風景

「初めて見るのに、どこか郷愁を感じさせる風景」。緑の空間であることはもちろん、尼崎の都市・景観イメージの向上にも一役買っています。

農業体験

子どもたちに大人気のイモ掘り。秋の収穫イベントだけでなく、最初から育ててみたいという方には、尼いも栽培援農ボランティア活動や、畑を一定期間借りられる市民農園があります。



親水空間（農業用水路）

農業用水路は、都市部のまち中でも水に気軽にふれることができ、うるおいを感じることができる親水空間で、多くの生き物がすむ場所です。

防災の効果

緑あふれる畑がもたらすものは、作物だけではなく、火災時には空地として延焼を防ぎ、大雨の時には、雨水が下水道や水路に一気に流れ込み氾濫するのを防ぐ保水機能があります。また、災害時には避難場所にもなります。